

# 福祉生活病院常任委員会資料

(令和6年6月13日)

## 【件名】

- 株式会社オミカレと連携した婚活イベントの開催結果について  
(子育て王国課)・・・2
- 鳥取県困難な問題を抱える女性への支援に関する基本計画の策定について  
(家庭支援課)・・・3
- 平成30年12月に発生した県立皆成学園入所児童の死亡事案の検証について  
(子ども発達支援課)・・・4
- 地域を担う人材の育成及び定着推進に関する県内高等教育機関との協定締結  
について  
(総合教育推進課)・・・5

子ども家庭部

# 株式会社オミカレと連携した婚活イベントの開催結果について

令和6年6月13日

子育て王国課

「カップル倍増プロジェクト」を推進するため、出会い・結婚支援サービス事業を展開している株式会社オミカレとの連携協定（令和6年3月30日付け締結）に基づく事業の第1弾として、婚活イベントを開催したので報告します。

## 1 概要

(1) イベント名 鳥取砂丘×マッチングイベント～未来の「いいね」を探しにいこう～

(2) 目的

若者ニーズにマッチした出会いの機会創出を推進するため、楽しみながら参加できる大規模婚活イベントを開催し、出会い・結婚への機運を醸成する。

(3) 日時・場所

令和6年5月25日（土）午後2時～午後5時 鳥取砂丘フィールドハウス周辺

(4) 参加者

・参加要件：鳥取県に在住・勤務、または鳥取県に興味関心のある20～30代の独身男女

・参加者：100名

（内訳：（性別）男性50名・女性50名、（居住地）県内86名、県外14名）

※募集定員は120名（男性60名・女性60名）とし、定員数まで埋まっていたが、当日キャンセル等もあり、上記人数で実施（元々は100名で募集開始したが、好評につき20名増枠）

## 2 内容

① 参加者を5つにグループ分けし、グループ対抗〇×ゲーム等を通じ、自然なかたちで会話・交流

② オミカレ社のマッチングアプリ「オミカレLive」を使って、気になる異性へアプローチ

③ アプローチの結果、マッチングできたお相手と1対1でセグウェイ等の砂丘ならではのアクティビティ体験をしてさらに交流を深めた

④ イベントの最後に、名前・連絡先等を記入したプロフィールカードを気になる異性に渡し、相互にカードを交換できたペアは鳥取砂丘こどもの国園内の「幸せの鐘」を二人で点鐘



## 3 結果

・マッチングアプリ「オミカレLive」のいいね件数：333件

※気になる異性にアプローチした数

・カップル成立数（プロフィールカードを交換したペア数）：29組（マッチング率58%）

・イベント参加者の約8割が満足・やや満足と回答

## 4 参加者の声

・「マッチングアプリを介することでスムーズにマッチングすることができた。」（20代男性）

・「とても良いイベントだった。グループ対抗ゲームが楽しかった。一步踏み出せた。」（20代女性）

・「家と職場の往復だけでは出会えない人達にたくさん出会えた。」（20代女性）

・「自分のグループ以外の方とふれあう機会が少なかった。」（30代男性）

## 5 今後の展開（予定）

① オミカレ会員とえんトリー会員10～30名程度の交流会を開催（県内東中西部各地区1回開催、8～9月頃）

② えんトリーの仲人ボランティア「縁ナビ」を介したオミカレ会員とえんトリー会員の1対1の引合せ

※この他、昨年度からの継続事業として、オミカレ社の社員を講師として招聘し、婚活リテラシー向上に係るセミナーを開催（年内開催）<sub>2</sub>

# 鳥取県困難な問題を抱える女性への支援に関する基本計画の策定について

令和6年6月13日  
家庭支援課

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（令和4年5月25日公布、令和6年4月1日施行）」（以下「女性支援法」という。）第8条に基づく「鳥取県困難な問題を抱える女性への支援に関する基本計画」を策定しましたので、報告します。

## 1 計画の概要

女性支援法や国の基本方針の内容を受け、これまで先駆的に推進してきたDV被害者等支援の取組を活かし、困難な問題を抱える女性の福祉の増進及び自立に向けた施策を総合的かつ計画的に展開し、個々の支援対象となる女性に対する支援が充実していくことを目指す。

## 2 計画の期間

令和6年5月から令和11年4月までの5年間（必要がある場合は随時見直す。）

## 3 計画の目標

困難な問題を抱える女性の人権が尊重され、安心して自立して暮らすことのできる社会の実現

## 4 主な内容

基本目標	施策の概要
1	<p><b>支援が届きにくい女性への支援体制づくりや安心して相談できる体制づくり</b></p> <p>(1) 女性の健康や人権の尊重、男女共同参画社会の意識醸成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 固定的性別役割分担意識の解消や男女共同参画の理解定着、男女間の暴力の根絶に向けた社会的意識の醸成を図るため啓発に取り組む。</li> </ul> <p>(2) 早期把握のためのアウトリーチ支援及び伴走型支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性であることにより性的な被害により遭遇しやすい状況にあることや、予期せぬ妊娠等の女性特有の困難について、早期相談につながるよう相談窓口を周知する。</li> <li>・ 把握した対象者が支援につながるよう伴走し、関係機関同士で支援の端緒をつなぐアウトリーチ支援に取り組む。</li> </ul> <p>(3) 相談支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援の中核機関として女性相談支援センターと市町村や関係機関等との連携を強化する。</li> </ul>
2	<p><b>女性が抱える様々な困りごとに対する多機関協働の支援の強化</b></p> <p>(1) 県女性相談支援センターの支援調整機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村や関係機関との連携強化のため、県女性相談支援センターの支援調整を強化する。</li> </ul> <p>(2) 福祉事務所や市町村、関係機関・民間団体等の人材育成研修等の実施</p> <p>(3) 様々な分野の各種相談機関とのネットワーク構築</p>
3	<p><b>県女性相談支援センターを中核とした生活再建や自立支援のための支援の充実</b></p> <p>(1) 一時保護の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DV被害者の安全確保を維持しつつ、その他の支援対象者の個別ニーズにも応じた一時保護の充実に取り組む。</li> </ul> <p>(2) 県ステップハウス運営事業の充実と利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期入所型のサポート付支援により生活再建や自立支援のさらなる充実に取り組む。</li> </ul> <p>(3) 同伴家族及び同伴児童に対する支援の視点をもったサポート強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性のみならず、同伴家族や同伴児童に対する支援強化に取り組む。</li> </ul> <p>(4) 地域生活の移行に向けた支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一時保護後やステップハウス退所後の地域生活移行・定着支援について、多機関協働の支援を強化する。</li> </ul>
4	<p><b>支援の切れ目をなくすための関係機関のネットワーク構築と支援調整機能の強化</b></p> <p>(1) 対象別制度の狭間やライフステージの狭間で、支援の切れ目をつくらぬ支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性相談支援センターの支援調整機能を強化する。</li> </ul> <p>(2) 一時保護等から地域生活の安定・定着の支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域生活の安定・定着支援について、多機関協働の支援を強化する。</li> </ul> <p>(3) 福祉事務所や市町村の女性相談支援の強化と包括的相談体制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村の包括的支援体制整備の推進に取り組む。</li> </ul> <p>(4) 様々な分野の各種相談機関とのネットワーク構築(再掲)</p>

# 平成 30 年 12 月に発生した県立皆成学園入所児童の死亡事案の検証について

令和 6 年 6 月 13 日  
子ども発達支援課

平成 30 年 12 月に発生した皆成学園入所児童の死亡事案を検証する社会福祉審議会児童福祉専門分科会「児童支援部会」について、第 3 回児童支援部会を開催しましたので、その概要について報告します。

## 記

- 1 日時 令和 6 年 5 月 20 日（月）午前 10 時から正午まで
- 2 場所 鳥取県立図書館（鳥取市尚徳町 101）
- 3 出席者 社会福祉審議会児童福祉専門分科会児童支援部会  
小野澤裕子委員、加藤由利委員、菅田理一委員、田中俊幸委員、田村和宏委員、前垣義弘委員、水野壮一委員、森田明美委員、渡邊大智委員（以上 9 名）  
事務局  
子ども家庭部長 中西朱実、子ども発達支援課長 松本剛志、皆成学園長 林裕人

## 4 議事概要

### （1）てんかんのある児童への支援体制及び支援方法の変更について

<主な意見>

- ・ てんかんのある方の死亡事故は、入浴時が最多であるため、本来の「入浴サービス提供マニュアル」の遵守が基本ではないか。
- ・ 本児童のてんかん発作が少なかったことから、その他の支援上の課題に着目した対応が中心となり、結果として、てんかんに係る支援が不十分になっていたのではないか。
- ・ 入所後に入院もあったことから、十分なアセスメントがあったとは言えず、そのような状況で支援方法が変更されたことに疑問がある。
- ・ 皆成学園は、総じて支援の困難性の高い児童が入所していることが多い。障がい、病状、行動障がいなどの様々な様相を呈する児童に対応する十分な人員配置が必要ではないか。
- ・ 支援方法について、日々職員間で情報交換する環境や責任者が判断することが重要ではないか。

### （2）入所時の医療情報の引継ぎ、主治医、学校、保護者等との情報共有の状況について

<主な意見>

- ・ 具体的なてんかん発作の状態や対応に関する引継ぎ情報が乏しかったのではないか。
- ・ 忙しい中での情報共有の方法は、工夫が必要と思う。
- ・ 医師への確認事項は、漏れのないように、あらかじめまとめておくとういのではないか。

### （3）事故発生時の対応（事故発生時の初期対応、役割分担）について

<主な意見>

- ・ 現場での初期対応としては、考える対応がなされていた。

### （4）事故発生時の職員間の連絡・連携体制について

<主な意見>

- ・ 事故後に保護者とのやり取りが滞っていたのは、入所時から保護者と施設との信頼関係ができていなかったからではないか。
- ・ 事故発生時は、施設長が差配し、関係機関への説明よりも保護者対応を優先することとし、それが難しければ、その旨保護者に説明することが必要ではないか。

## 5 その他

第 4 回開催日は、令和 6 年 7 月 29 日（月）に決定した。

# 地域を担う人材の育成及び定着推進に関する県内高等教育機関との協定締結について

令和6年6月13日  
総合教育推進課

地域を支える人材確保には学生の県内定着促進が重要な課題であることから、県と県内高等教育機関が同じ方向を向いて若者定着を強力に推進していくため、新たに目標数値を定めた「地域を担う人材の育成及び定着推進に関する協定」を締結しましたので、概要を報告します。

- 1 期日 令和6年5月27日（月）
- 2 場所 ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間
- 3 内容等

- 若者の地元定着に向けたキックオフ会議
  - ・各高等教育機関における若者定着状況の現状と若者定着（県内就職率）目標
  - ・目標達成に向けた新たな取組
- 協定締結式
  - ・協定者 鳥取大学学長 中島廣光  
 公立鳥取環境大学学長 小林朋道  
 鳥取短期大学学長 松本典子  
 鳥取看護大学学長 荒井 優  
 米子工業高等専門学校校長 山口 利幸  
 鳥取県 平井知事



## 4 協定の概要

### (1) 目的

鳥取県と県内大学等が連携して、地域を支え、地域で活躍する人材の育成及び定着を推進する。

### (2) 連携協力の内容等

- ・3年間（R6～R8）の県内就職率の数値目標を定めること
- ・地域を担う人材の育成の推進に関すること
- ・県内大学等における県内就職促進・定着に関すること
- ・協定期間は令和8年度末まで（協定締結者から更新しない旨の意思表示がなければ1年間延長）

県内大学等	実績	目標値		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
鳥取大学	23.1%	23.2%	23.3%	24.0%
公立鳥取環境大学	19.1%	25.0%	26.0%	27.0%
鳥取看護大学	70.5%	71.0%	72.0%	75.0%
鳥取短期大学	82.6%	83.0%	83.0%	83.0%
米子工業高等専門学校	14.6%	18.0%	19.0%	20.0%

### (3) 各高等教育機関の目標達成に向けた新たな取組等

	主な取組
鳥取大学	・認定学生17名が学生目線で企画立案して企業ガイドやインターンシップ体験動画を作成 ・学生と県内企業との関係性を深めるような「知る」「見る」「体験する」インターンシップを強化充実
公立鳥取環境大学	・授業科目「鳥取グリーンベンチャー」について、長期地域密着型プロジェクトに参加し、県内企業や地域の魅力を体験できる内容に改定
鳥取看護大学	・病院訪問や実習調整会議により病院との関係を強化し、実習の充実を図ることで学生の地域定着を促進
鳥取短期大学	・企業説明会や保育士、栄養士等の職場説明会により地元企業との交流を充実
米子工業高等専門学校	・地元企業への愛着を深めるため開講している「地域学（総合工学科2年次）」における企業見学等に注力

※これらの取組のほか、「とっとり若者Uターン・定住戦略推進事業（6月定例会に提案中）」の取組など、学生の意見を取り入れ、より実効性の高い仕組みを考えて実行していく。